



**WASEDA UNIVERSITY**

# グローバル30総括シンポジウム

早稲田大学

副総長 内田 勝一



## Agenda

### 1. International Scholar Services(ISS)

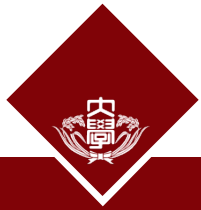
外国人教員・研究員への  
ワンストップサービス

### 2. International Community Center (ICC)

学生が創り・育てる  
異文化交流コミュニティ

### 3. 早稲田大学における外国人学生向けサービス

外国人学生への  
ワンストップサービス



# 1. International Scholar Services(ISS)

### ISSについて

- 早稲田大学にて教育・研究活動を行う外国人教員および研究員の活動を支援する組織
- G30の開始と共に、国際部国際課内に設置
- 専任1名(兼務)、嘱託3名の合計4名にて運営(国際部スタッフ数は約100名、国際課スタッフ数23名)
- 本学を訪問する研究者数は年間200名以上(ISSを通して把握している人数で、非公式の訪問は含まず)
- 本学では、研究者を4つの身分で受入(右表)

### 本学における研究者としての受入身分

交換研究員	本学と学術交流協定を有する大学の研究者(助手以上)。宿舍の割引などあり。
訪問学者	専任講師以上の身分で3ヵ月から1年以内の滞在者。
外国人研究員	助手・助教クラスの身分で3ヵ月から1年以内の滞在者。
リサーチ・インターン	海外の大学において修士課程に在籍する者。

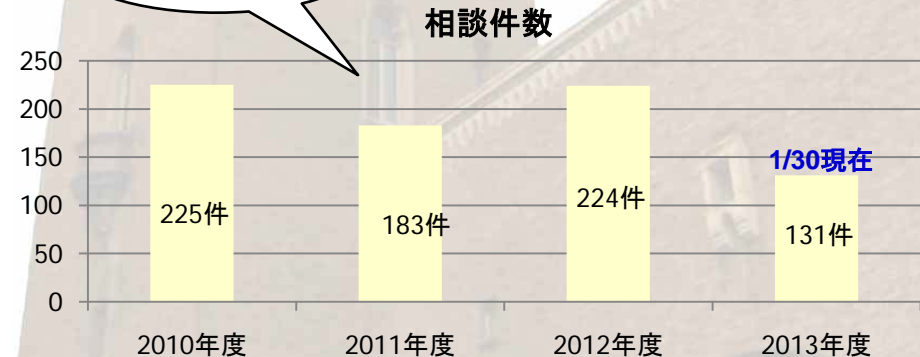
### 提供しているサービス

- 外国人研究者のスタートアップ支援(宿舍手配、査証(VISA)手配、空港送迎サービス、ネットワーク・図書館利用の手続等)
- 生活に関する情報提供(病院、区役所、銀行、携帯等)
- 在留資格相談窓口
- 外国人研究者向けの交流会(お花見、クリスマス等)



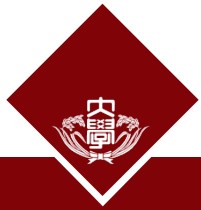
ISSが企画する外国人教員対象の懇親会

震災により  
一時的に減少



### 相談件数

- 年間約220件程度 (右グラフ)



# 1. International Scholar Services(ISS)

### 成果

- ① 外国人研究者の増加(右グラフ)
- ② 査証に関する法令改訂への迅速・正確な対応
- ③ 学内環境の向上 (ISSチームの働きかけにより研究室、自習室、ITインフラが整備)
- ④ 研究者同士の交流の活性化
- ⑤ 本学での研究を懇意とする研究者の増加

### 課題

多様化・拡大化する研究者の形態・ニーズにどう応えていくか

- ① 第三言語(特に中国語・韓国語)への対応の必要性
- ② 外国人研究者の増加に伴う、本学施設(宿舎・研究室など)の慢性的な不足
- ③ 非公式で訪問している外国人研究者の把握と扱い
- ④ 不適切な在留資格所持者、安全保障輸出管理の観点から受入が難しい外国人研究者の扱い
- ⑤ 外国人研究者の知的財産権の扱い(特に帰国時)

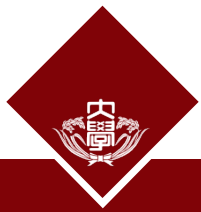
外国人研究者の受け入れ人数



### 解決の方向性

- ① 対応できるスタッフの採用・育成
- ② 計画的なキャンパス整備、現存施設の有効利用
- ③ 公式訪問のメリット(宿泊費の割引等)の広報
- ④ 各学部スタッフへの安全保障輸出管理の研修
- ⑤ 在留資格の定期的・効率的な確認
- ⑥ 学内IT部門によるITシステムの構築、DB整備

完全には対応ができておらず、今後の更なる改善が必要



## 2. International Community Center (ICC)

### ICCについて

- 2006年開設
- 設立趣旨: 学生を主体とした異文化交流及び異文化理解促進のための情報発信
- 派遣・受入の「数値指標」から多文化共生キャンパスの「質的充実」へ
- スタッフ(専任・嘱託)8名、学生スタッフリーダー15名

### 特色

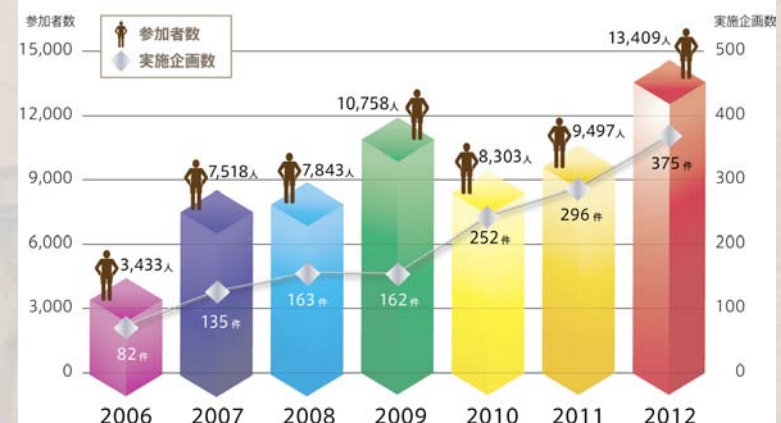
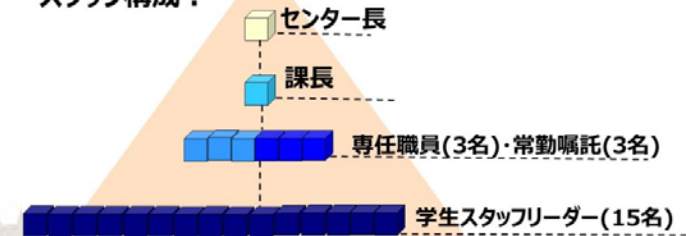
- 在学生をスタッフとして雇用し(学生スタッフリーダー)、職員と協働で異文化交流イベントの企画・実施にあたる

### 提供しているサービス

- 留学生と日本人学生の相互交流企画(例:ランゲージ・アワー、スポーツ交流、フィールドトリップ等)
- 留学生と日本人学生の協働機会(例:グループ・リサーチ・プロジェクト、テーマ・キャンプ等)
- 異文化理解推進企画(例:アカデミックフォーラム等)
- 校友、地域コミュニティとの交流企画

イベント数、参加者数 毎年増加傾向 (→)

スタッフ構成:





## 2. International Community Center (ICC)

### 成果

- 昨年は375のイベントを実施し、のべ1万3千人以上の学生が参加
- 活動に参加した学生の社会人基礎力の向上(企画力、交渉力、コミュニケーション力など)
- 留学生の高い満足度(「イベントで友達ができた」「日本語を話すイベントが楽しい」との感想)
- 日本人学生への国際化波及効果(「留学生と触れ合えた」「世界の課題に関心を持つきっかけとなった」との感想)
- 学外からも関心の高まりにより、企業連携や他大学連携へと発展

### 課題

#### 学生視点の運営・イベントをどう確立するか

- 関心の低い学生層への継続的な働きかけ
- 優秀な学生スタッフの継続的確保・育成
- 課外活動の成果指標の確立

#### 告知ではなく「広報」

- ICCホームページ・ブログ更新(イベント企画の舞台裏等)
- 学生・教職員向けポータルサイト掲載
- 立て看板
- メールニュース 約6,650人登録
- Facebook ファン約3,785人
- Twitter フォロワー約2,710人

#### 「双方向」の交流の活発化

異なる背景の学生同士がお互いから学び、支え合うピア・ラーニング、ピア・サポートのコミュニティ形成支援

### 今後の方向性

- 引き続きさまざまな企画に取り組み学内外でのプレゼンスを上げる。
- 国内でも他に学生同士の相互交流に特化したセンターはない中、ICCの経験・ノウハウを有機的に活用できるような体系化を進める。



### 3. 早稲田大学における外国人学生向けサービス

#### 本学のワンストップサービスの取組について

- **入試**
  - 外国人入試を一元的に扱う「IAO (International Admissions Office)」の開設(2009年)
- **在学中**
  - 留学生への一般対応は、各学部・大学院の事務所
  - 学生対応の一部(履修相談、科目登録相談、IT相談など)を「WPO(Waseda Portal Office)」が担当
  - 留学・日本語履修に関する相談は「CIE(Center for International Education)」が担当
  - 病気・心的問題については、学内診療所(医師・カウンセラー常駐)が対応
- **就職活動時**
  - 「キャリアセンター」が担当

現状では、部分的ワンストップサービス化に留まる

#### 背景

##### 留学生の種類・ニーズの多様化

- 正規・非正規(交換)学生
- 学部・大学院(修士・博士)
- アジア系・欧米系
- 宗教 (例: 食事のハラム対応、礼拝室の設置)

##### 本学の各箇所(学部・大学院)の独立性の高さ

- 各学部・大学院がそれぞれの意志決定組織と、事務所を有する
- 言語対応の可能なレベルは、事務所により異なる



### 3. 早稲田大学における外国人学生向けサービス

#### 成果と課題

- ① IAOの設置により、問い合わせ対応等の一元化が実現。一方、各学部・大学院の入試方法の統一までには至っていない。
- ② WPOの設置により、一部学生サービスの統一、事務作業の削減に成功。しかし、依然として各学部・大学院ごとの事務所の統合には至らず。
- ③ メンタルで課題を有する学生への専門家の対応が実現。言語、文化の壁により限界が発生。
- ④ キャリアセンターの留学生対応の充実により、日本企業への就職実績が増加。一方、就職活動への意識・習慣の違いから、対応に苦慮。

学生ニーズの多様化・変容化に応じた  
適切な組織体制の確立